

当面の技術対策（農産編）

平成23年10月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 農作業事故防止

日没も日増しに早まっていることから、作業中はよりいっそう周囲の安全確認に努めましょう。また道路走行時は、トラクタの前照灯や車幅灯を早めに点灯するとともに、作業機には低速車マークや反射板・反射シールを装着し、安全運転を心がけましょう。

2 秋まき小麦

(1) 今後は種作業を行う場合

は種する場合には、は種粒数を255粒/m²(種子千粒重36gで9.1kg/10a)をめどに増量してください。

(2) 除草剤散布

除草剤処理は必ず実施し、散布時には使用時期に注意して行いましょう。

表 除草剤使用例

薬剤名	使用時期	使用量(ml/10a)	注意事項
ガレス乳剤	は種後～発芽前	200～250	砂壤土～埴土に使用する。麦の葉身が白化する可能性があるが回復する。
	小麦の1～3葉期	100～150	
ゴゴサン乳剤30	は種直後～小麦の2葉期	300～400	排水不良のほ場や多量の降雨が続く場合は、使用を避ける。

3 てんさい

(1) 収穫時の注意

収穫作業は輸送計画にもとづき集荷日の2～3日前には終了できるよう計画・実施する。根腐病などで腐敗を生じている部分は別掘りとし、腐敗の混入を防ぐ。

(2) 堆積・貯蔵

収穫したてん菜をほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず防水シートなどで被覆し、腐敗・乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨による腐敗も予想されるので、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなどの排水対策を行いましょう。

(3) 翌年作付予定ほ場の準備

低pHによる生育不良や障害が散見されるので、翌年作付予定ほ場についてはpHを事前に測定し、低い場合には事前に石灰質資材による酸度矯正を行いましょう。

(4) 育苗土の確認

翌年の育苗土を準備していない場合には育苗土の確保・酸度矯正・完熟堆肥混和など、早急に実施してください。

4 馬鈴しょ

(1) 収穫時の注意

早朝など10℃以下になる低温時の収穫は、打撲による皮下黒変を生じるおそれがあるので、日中の気温が高い時間帯に収穫を行う。

ほ場で風乾中、被覆シートをかけたままにすると温度が上がり、黒色心腐が発生する場合がありますので、できるだけ収穫後は、風通しの良い日陰に仮収納する。

5 豆類

(1) 小豆・手亡の収穫

小豆や手亡のピックアップ及びコンバイン収穫は、次の事項を参考に実施してください。

表 ピックアップ及びコンバイン収穫の要点

区分	小 豆	手 亡
刈取	熟莢率100%（子実水分16～18%） 晴天日の早朝に刈り取る	熟莢率100%の日から1週間後
脱穀	土壌表面が乾燥している時に行う	同左

(2) 収穫残さの処理

収穫後の茎葉等の残さ物は、病害の発生源や害虫の越冬場所となるので、できるだけ場外に搬出し堆肥化等、適正に処理しましょう。

6 緑肥

(1) 緑肥の処理

緑肥の雑草化を防ぐため、必ず結実する前にすき込みます。また、温度が低くなると分解が進みづらくなりますので、10月中旬を目安にすき込みましょう。

また、すき込み時にはチョッパーやロータリで細断し、より分解を促進しましょう。

適度な休憩をとり、農作業事故に十分注意しましょう！